



平成 25 年 5 月 31 日

各 位

会 社 名 日本海洋掘削株式会社  
代表者名 代表取締役社長 村 田 稔  
(コード番号: 1606 東証第一部)  
問合せ先 経営企画室担当室長 谷内正彦  
(TEL. 03-5847-5862)

### 新造リグ「HAKURYU-11」の完成・引き渡しおよび当社連結子会社への譲渡について

シンガポールの造船所 Keppel FELS Limited において建造工事が進められておりましたプレミアムクラスのジャッキアップ型リグ「HAKURYU-11」につきましては、5 月 31 日に完成し、当社は同造船所より本リグの引き渡しを受けましたので、お知らせいたします。

また、本リグは、同日をもって当社より連結子会社の「Japan Drilling (Netherlands) B.V.」(オランダ王国、以下「JDN 社」)へ譲渡されましたので、併せてお知らせいたします。

なお、本リグは本年 7 月から、最初の稼働地となるベトナム沖で、Conson Joint Operating Company との契約に基づき、ファーム1坑(約 100 日)の掘削工事を開始する予定です。

#### 1. 本リグの主な仕様

最大稼働水深	: 425 フィート(130m)
最大掘削深度	: 35,000 フィート(10,668m)
居住区収容人数	: 150 名
全長	: 246 フィート(75.0m)
全幅	: 218 フィート(66.4m)
船体部高さ	: 25 フィート(7.6m)
脚長	: 531 フィート(161.8m)
最大吊り荷重	: 2,000kips(907トン)
BOP 最大使用圧力	: 15,000psi
船籍	: パナマ

#### 2. 連結子会社への譲渡

##### (1) 譲渡の理由

本リグは、海外における複数の国での操業が見込まれることから、海外での事業展開に最も適した企業環境が整備されているオランダ王国に設立済みの JDN 社が本リグを所有する形といたしました。なお、同社は同型リグ「HAKURYU-10」を所有しております。

##### (2) 譲渡の概要

- ① 譲渡先 : Japan Drilling (Netherlands) B.V.
- ② 譲渡方法 : 割賦売買契約
- ③ 譲渡日 : 平成 25 年 5 月 31 日付

#### 3. 連結業績に与える影響

本件は連結子会社との取引につき、平成 26 年 3 月期の連結業績に与える影響はありません。

#### 【本開示資料ご利用にあたっての留意点】

本発表資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、種々のリスク、不確実性および前提・仮定を内包しております。

将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。

これらの情報は、発表時点で入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいております。実際の業績は、これらのリスクや不確実性が顕在化しあるいは現実が前提・仮定と異なった場合、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみで全面的に依拠することは控えられませうお願いいたします。

また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社が将来の見直しを見直すとは限りません。

実際の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- (1) 当社の事業領域を取り巻く環境、特に原油・天然ガス価格の動向、国営あるいは民間の石油開発会社による探鉱開発活動の動向ならびに同業者間の競争やリグの需給関係
- (2) 客先による工事発注のキャンセルや工事契約の早期解約
- (3) 事故、災害、不可抗力等による作業の中断や工事契約の早期終了
- (4) 造船所でのリグ設備の保全・増強工事等の工期遅延や工事費用の増加
- (5) 海外での事業展開に伴う現地での政治的・経済的要因、戦争・暴動・テロ等の社会的混乱、その他のカントリーリスクによる不利な影響
- (6) 為替レートや金利の変動
- (7) 公的規制の改訂、変更等および訴訟等の法的手続の結果

以上